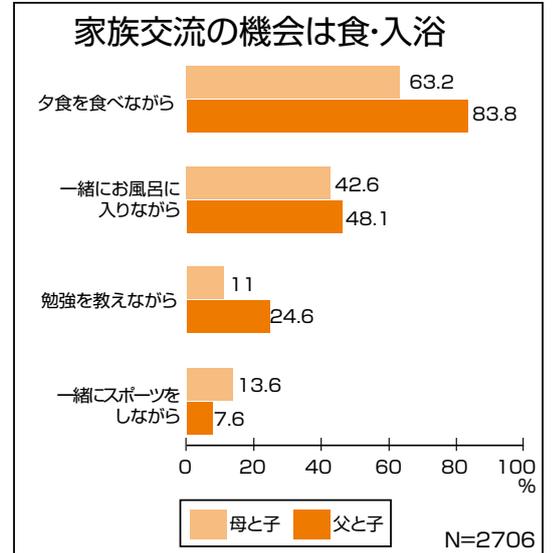


1 お風呂は貴重なコミュニケーション機会

家族交流の機会が多いのは、食事とお風呂です

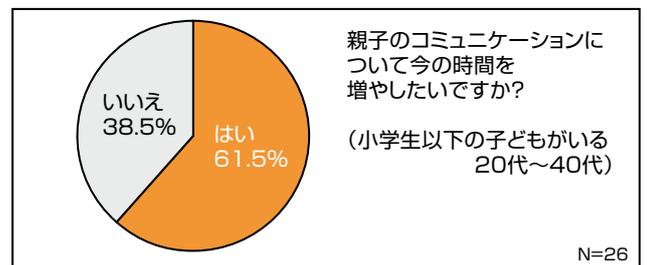
母親と子ども、父親と子どものどちらも「夕食を食べながら」が最も多く、2番目が「一緒にお風呂に入りながら」。お風呂でのコミュニケーションは、スキンシップやお湯のリラックス感により普段より打ち解けた会話が期待できます。家族とのコミュニケーションがとりにくい現代社会において、親子の関係を一層深めるために、お風呂の意義は大きいものになっています。



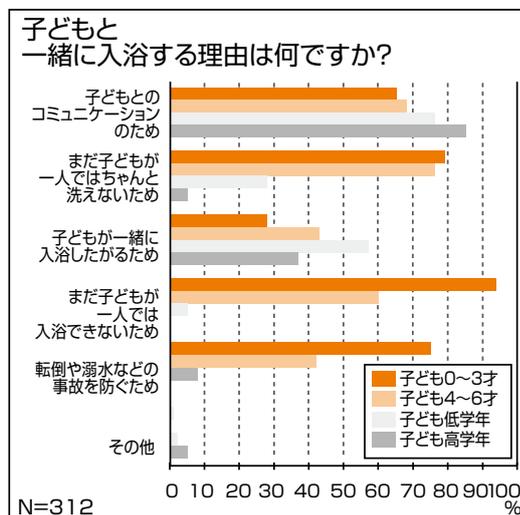
2005年東京ガス調べ

子育て世代の多くはもっと親子でコミュニケーションしたいと感じています

小学生以下の子どもがいる20代～40代に聞いたところ約6割が親子のコミュニケーションについて今より時間を増やしたいと答えています。



2006年東京ガス調べ



2007年東京ガス調べ

子どもの年齢に関わらず、入浴はコミュニケーションの場になっています

年齢が低い頃は、「一人ではちゃんと体を洗えない」、「一人では入浴できない」、「転倒や溺水などの事故を防ぐ」など消極的理由で一緒に入浴しますが、年齢が上がるにつれて、「子どもとのコミュニケーション」のために一緒に入る人が多いようです。